

# 教育研究業績書

2019年5月1日

氏名 森田 久仁子

研究分野	研究内容のキーワード	
文化人類学	観光/宗教学人類学、異文化コミュニケーション、グローバル人材育成	
教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
(1) 東南アジアと大阪大学の学生に対するインターンシップ合同研修	平成 25 年 8 月から平成 28 年 11 月	インドネシア大学、マラヤ大学、デ・ラ・サール大学、カセサート大学、ハノイ工科大学、ヤンゴン工科大学の工学/人文系の学生と大阪大学の学生が参加する海外合同インターンシップの引率教員として、現地の各大学でプレゼンテーション、異文化コミュニケーション、異文化マネジメントに関する講義と指導を英語で行った。
(2) スカイプを活用した事前研修の導入	平成 26 年 10 月	インターンシップにおける相互のコミュニケーションを円滑にするため、デ・ラ・サール大学（フィリピン）の学生とスカイプをつなげ、事前に自己紹介やお互いの文化の紹介を英語で行った。
(3) 授業における YouTube ビデオの活用	平成 26 年 4 月から現在	Global Tourism, Time Management, Diversity Management など各回テーマを設定し、関連するビデオを視聴し、要約やディスカッションを英語で行った。
2 作成した教科書、教材		
(1) 『文化人類学事典』日本文化人類学会	平成 21 年 1 月	「巡礼と場所」の項目を執筆した。
(2) 『高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働』（共編著）御茶ノ水書房	平成 22 年 10 月	少子高齢化が進む社会において、高齢者を含むすべての世代の人々が心地よいと感じる生（ウェルビーイング）を協働で作っていくにはどうしたらよいか、フィールド調査に基づき論じた。医療人類学、看護学、死生学を学ぶのに適した教科書である。
(3) 『文化人類学』医学書院	平成 23 年 11 月	医療人類学、看護学、死生学を専攻する学生のために作成された教科書である。『系統看護学講座 文化人類学』も別版として医学書院から出版されている。森田は第 5 章（pp. 130-155）の執筆を担当した。
(4) 「インターンシップの事前研修で用いる教材の開発」	平成 25 年 8 月	東南アジアに進出した日系企業で実施するインターンシップ用の教材「日系企業のビジネスマナー」「日本企業の経営理念」「企業の社会的責任 CSR とは何か」「5 S とは何か」「品質管理サークル」の英語版を作成した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価 授業評価アンケート	平成 25 年 8 月	授業評価アンケートでは、特に「授業に対する教員の熱意」や「説明の分かりやすさ」「質問に対する対応」で高い評価を得ている。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
【英語による授業】 海外東南アジアの 6 つの大学における講義	平成 25 年 8 月から平成 28 年 11 月	インドネシア大学等、東南アジアの 6 つの大学において、異文化コミュニケーションや異文化マネジメントに関する講義を英語で行った（上記 1 (4)）。
Global Career Designing	平成 26 年 4 月から平成 28 年 3 月まで	前期・後期各 2 単位。常勤（大阪大学）*英語による授業。

Introduction to Social Sciences (社会科学入門)、Topics in Humanities (人文学概論)、Topics in Social Sciences (社会科学概論)、Strategic Debate (戦略的交渉術)、Effective Research Paper (文系の論文の書き方)	平成28年4月から平成29年3月	前期各2単位ずつ。非常勤(関西外国語大学) *英語による授業
【地域連携】 兵庫県立高砂南高等学校における出前講義	平成29年10月24日	講義題目「『常識』について考える：比較文化論の視点から」
2017年度甲子園大学公開講座	平成30年3月14日	講義題目「ショパンと過ごす地中海：レクチャーコンサート♪」
2018年度甲子園大学公開講座	平成31年2月25日	講義題目「地中海をめぐる食と音楽の旅」
職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
1 資格, 免許		
(1) TOEIC 公開テスト (2) 日本英語検定「1級」	平成24年7月 平成27年11月	990点取得 合格
2 特許等		なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項		なし
4 その他(フィールドワーク)		
海外調査歴 (観光/宗教人留学)		地中海マルタ、イタリア(北部サンダミアーノ)、スペイン(マドリード、セビージャ)、日本(岡山県、京都府、東京都)において延べ約2年間のフィールドワークを実施。
海外調査歴 (グローバル人材育成)		インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、マレーシア、ミャンマーに展開するグローバル企業において延べ約12週間の調査を実施。

## 教 育 研 究 業 績 書

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	著書は総ページ数、学術論文等は巻、号、ページ	概 要	共著の場合担当部分の章・節、題名、ページ
<p>著書</p> <p>1 『「聖女」信仰の成立と「語り」に関する人類学的研究』</p>	<p>単著</p>	<p>平成16年2月</p>	<p>すずさわ書店</p>	<p>444 ページ</p>	<p>「マリア出現」を体験した女性が聖なる女性として人々の崇敬を集め、彼女を取り巻く新たな宗教集団が成立するとともに、「伝説の地」が観光地化する重層的な変化のプロセスを、地中海マルタを事例に取り上げ論じた。その際、「語り」の意味作用という視点から体験者のナラティブ・アナリシスを行い、現実の出来事と語りの二つのレベルにおける物語の構築とその関連性について考察した。</p>	
<p>2 『高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働』</p>	<p>編著</p>	<p>平成22年10月</p>	<p>御茶ノ水書房、鈴木七美、藤原久仁子、岩佐光広共編</p>	<p>188 ページ</p>	<p>応募者は「巡る：岡山県井原市『嫁いらず』観音院に託する高齢者の想い」と題し、終末期を構想する高齢者とその周囲の人びととのアフターライフデザインの協働作業について考察を行った。共著者は全10名である(第1章 鈴木七美、第2章 寺崎弘昭、第3章 白水浩信ほか)。</p>	<p>第10章「巡る：岡山県井原市『嫁いらず』観音院に託する高齢者の想い」(pp. 149-161) および「あとがき」(pp. 179-180)</p>
<p>3 『文化人類学 [カレッジ版]』</p>	<p>共著</p>	<p>平成23年11月</p>	<p>医学書院、波平恵美子編</p>	<p>226 ページ</p>	<p>医療看護学や文化人類学を専攻する学生のために作成した教科書であり、『系統看護学講座 文化人類学』も別版として医学書院から出版されている。「人間と文化」、「文化人類学と質的研究」、「個人とコミュニティ」、「健康・病気・医療」「人間と死」などのテーマを取り上げ、文化の多義性や健康観を含む認識の多様性について医療人類学的視点から論じた。執筆者は波平恵美子、小田博志、仲川裕里、浜本まり子、藤原久仁子、道信良子の全6名である。</p>	<p>第5章「宗教と世界観」(pp. 130-155)</p>

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	著書は総ページ数、学術論文等は巻、号、ページ	概要	共著の場合担当部分の章・節、題名、ページ
学術論文  (査読付論文) 1「守護聖人祭における演劇的パフォーマンス：Kazin tal-Bandaの活動を通して」(修士論文)	単著	平成 8 年 3 月	お茶の水女子大学人文科学研究科	129 ページ	教会主導で進められる festa ta' ġewwa と民衆主導の festa ta' barra を切り口に、信徒組織 Kazin tal-Banda の活動を検討し、国民党と労働党、村と村、都市部と農村部などの二項対立とどのような重層的な関係にあるかを論じることを通じて、南ヨーロッパの小国マルタの地域性を明らかにしようと試みた。	
2「聖人信仰と社会集団関係考：マルタ南部村アーシャを事例に」	単著	平成 9 年 5 月	『地中海学研究』、地中海学会	第 20 号：153-173	アーシャ村における聖人信仰と社会集団の関係を考察した論文であり、1 年 1 ヶ月間のフィールドワークで得られた調査データに基づく記述で構成されている。	
3 「『マリア出現』をめぐる出来事に関する人類学的研究：巡礼地・『聖女』・宗教集団の誕生と『語り』の作用」(博士論文)	単著	平成 13 年 3 月	お茶の水女子大学	274 ページ	マリア出現を契機とする巡礼地/観光地がマルタに成立するプロセスについて、マリア出現の体験者の「語り」が持つ構築的な力の観点から論じた。「語り」を通じていかに新たな自己や人びとの関係性、信仰の場としての空間(巡礼地)が現実の世界で構築されるかについて、語りのレベルと現実のレベルに分け、二元的世界を接合させる実践として「語り」を論じ、社会構築主義や言語行為論の一元的な捉え方に対する批判的検討を行った。	
4 「『奇跡』の物象化：マルタにおけるマリア崇敬と巡礼地の現在」	単著	平成 15 年 6 月	『宗教と社会』『宗教と社会』学会	第 9 号：67-90	巡礼地という様々な人が参集する場において、物(巡礼グッズ)が癒しの「奇跡」を物象化した媒体として機能すると同時に、異なる巡礼対象の宣伝媒体としても機能する点を指摘した。	
5「オーセンティシティの多様化論再考：秋田のカトリック巡礼地『聖体奉仕会』を事例に」	単著	平成 21 年 3 月	『コンフリクトの人文』大阪大学出版会	第 1 号：135-161	巡礼地において、多様なオーセンティシティが追求されたとしても、必ずしも意味のせめぎ合いや葛藤が起こるわけではないことを、事例を通じて示した。	
6「巡礼地はどこにあるか：サイバーグレース時代における聖の場所性をめぐって」	単著	平成 21 年 6 月	『宗教と社会』『宗教と社会』学会	第 15 号：23-41	日常/非日常を往還する行為として捉えられてきた巡礼に対し、マルタにおける感謝巡礼を事例に取り上げ、聖は日常の中に主観的に立ち現われては消えていくことを主張した。	

7 “ Rethinking Successful Aging: From the Perspective of Jizō with the Replaceable Heads”	单著	平成 24 年 9 月	<i>Anthropology &amp; Aging Quarterly</i>	33(3): 104-111.	品川の願行寺の「縛り地蔵」に対する高齢者の信仰実践を取り上げ、「サクセスフル・エイジング」研究における自立的個人の反モデル化として、高齢者イメージを再構築する必要性を論じた。
8 “ Coping with Anxiety in a Long-living Society: Elderly Japanese Pilgrims and Their Life Design for Living Happily Ever After”	单著	平成 25 年 2 月	<i>The Anthropology of Aging and Well-being</i> , National Museum of Ethnology, Nanami Suzuki (ed.)	80:109-122	岡山県井原市にある「嫁いらず観音院」への巡礼を事例に、少子高齢化が進む日本のぼっくり信仰に基づく諸実践を取り上げ、多世代が交流し、互いをケアすることで構築される幸せ happiness/well-being や今後の福祉の方向性について論じた。
9 “ Customizing Places: Pilgrimage Sites, Holy Statues and the Moment of Connectedness in Contemporary Malta”	单著	平成 25 年 1 月	<i>The Anthropology of Europe as Seen from Japan</i> , National Museum of Ethnology, Akiko Mori (ed.)	81: 169-181	つながりやきずな (日本)、ソシアビリテ (フランス)、the social (英語圏) であらわされる関係性について、巡礼者の行為を基軸につながり合うことが可能な場所の所在を論じた。
10 「現代カトリックにおける『邪悪なもの』の再定位：悪魔の領域としての邪視・占い・ニューエイジ」	单著	平成 26 年 3 月	『キリスト教文明とナショナリズム：人類学的研究』杉本良男編、風響社	pp. 109-124.	現代カトリック文化圏における悪魔祓い (エクソシズム) の位置づけと意味の変化について、精神医学と宗教学の解釈を示した上で、本論文では特に地中海地域の文脈に照らしながら、「悪」の対象の転換により信徒の希望が創出され、信者数の増大を生み出している可能性を論じた。
(査読無論文)					
11 「多義的言説の運用と置換：マルタの守護聖人祭を事例に」	单著	平成 10 年 2 月	『OCHANOMIZU ANTHROPOLOGY』お茶の水女子大学文化人類学研究室	第 2 号：81-100	祝祭時に発せられる冗談や罵声、冒瀆語の分析を行い、日常の規範と祝祭時の逸脱規範の相同性について論じた。
12 「<語り>のアンタシテ：マルタ島の Wied tal-Girgenti におけるマリア出現」	单著	平成 10 年 3 月	『人間文化研究年報』お茶の水女子大学人間文化研究科	第 21 号：196-204	「マリア出現」を体験した女性の「語り」を言語行為論の視点から考察した。
13 “Becoming a ‘Saint’: The Case Study of the Apparition of the Virgin Mary at Girgenti in Southern Malta”	单著	平成 13 年 1 月	『山梨学院大学一般教育部論集』山梨学院大学	第 23 号：190-204	「マリア出現」を体験した女性が、メッセージの伝達者からカリスマを備えたヒーラー (治療師) に変容していく過程を考察した。
14 「同調する空間：イタリアのサン・ダミアーノ巡礼地に関する人類学的考察」	单著	平成 15 年 1 月	『山梨学院大学一般教育部論集』山梨学院大学	第 25 号：145-167	巡礼地を訪れる人々の増加現象を取り上げ、現代における個人主義の一つの立ち現われ方として、巡礼団 (集団) に属する個人の活動を記述した。

15『『聖女』の身体:「マリア出現」の体験者に関する一考察」	单著	平成 16 年 1 月	『多民族社会における宗教と文化』宮城学院女子大学キリスト教文化研究所	第 7 号 : 1-20	カトリックには聖人認定制度があり、聖人研究においては典礼暦に記載された聖人が主な対象となってきた。本稿では、称号を得る前の「聖なる人」を分析の射程におさめるための方法論を、「身体」を手がかりに探った。キリスト教文化研究所における研究発表に基づく。
16「『巡礼地化』する島：観光事業と信仰/実践のあいだ」	单著	平成 17 年 3 月	『キリスト教と文化』 関東学院大学キリスト教文化研究所	第 3 号 : 79-87	1970 年以降、神津島はカトリックの巡礼地/観光地として知られるようになり、韓国からも巡礼団が訪れるようになった。国内外からの巡礼団や観光客の訪問という状況に対し、地域社会の人々はどのような対応を見せているのか、行政側とカトリック信者と一般の人々に分けて分析を行った。
17「カトリック世界における『宗教復興』: 聖体礼拝 <i>adorazzjoni</i> の今日的展開について」	单著	平成 17 年 9 月	『現代宗教 2005』 東京堂出版	pp. 130-149 (全 343 ページ)	現代世界における宗教復興現象について、各地域研究者が分担執筆した。藤原はカトリック社会における宗教復興現象について、聖体礼拝の在り方の変化に着目しながら「複数の宗教復興」について論じた。執筆者は島菌進他 17 名である。
18『『ファンダメンタリストック』という選択: カトリック世界における名づけと名乗りと生き方のポリティクス」	单著	平成 22 年 11 月	『シリーズ来たるべき人類学 第 3 巻 宗教の人類学』石井美保・花渕馨也・吉田匡興編、春風社	pp. 97-125 (全 273 ページ)	ムゼウムというマルタの宗教団体を事例に、彼らをめぐる名付けと名乗りに着目し、カトリック世界を対象にしたファンダメンタリズム研究と現地概念の齟齬を明らかにし、従来のファンダメンタリズム/原理主義研究に対する批判的検討を行った。執筆者は石井三保他 8 名である。
19「主体化をめぐる複数の回路とトランスカルチャーション: マルタにおける告解の事例から」	单著	平成 23 年 3 月	『コンタクト・ゾーン』 京都大学人文科学研究所人文学国際研究センター	第 4 号 : 44-59	生政治や福祉国家の文脈で言及されることの多い司祭者権力であるが、本論文では、マルタにおける告解を事例に、従順な隷属主体とは必ずしもいえない、複数の主体形成が告解を通じて行われていること、そして、それらの主体が及ぼすカトリック教義のトランスカルチャーションについて論じた。
20「自己をめぐるコンフリクト論再考: モノ/者としての地蔵の身体性を手がかりに」	单著	平成 24 年 3 月	『叢書 コンフリクトの人文学 第 1 巻 コンフリクトから問う: その方法論的検討』小泉潤二・栗本英世監修、富山一郎・田沼幸子編、大	pp. 17-32 (全 196 ページ)	人間が身体を持つように地蔵は石像という「身体」を持ち、人間との関係の中である特定の行為を要請するモノ/者として認識される。品川の願行寺の「縛り地蔵」の場合、信者は地蔵の首を取り外しそれを自宅に持ち

21. 「変奏される伝説、 転置するフェティッシュ： 奇跡をめぐる欲望が 生み出す人・モノ・ 場所」	単著	平成 26 年 2 月	阪大学出版会 『フェティシズム研究 2 越境するモノ』 田中雅一編、京都大学 学術出版会	pp. 155-180 (全 493 ページ)	帰ることができる。本論文では、 聖なるモノと人間のアイデンティ ティの揺れ、及び自己の人生 を託するモノ/者から見えてく る認識のあり様の変化について 論じた。  本論文では、人と聖なるモノと 奇跡に対する欲望の関係が「強い」 からこそ、モノにまつわる 伝説が反復的に変奏されること、 そのモノが本物か偽物かを めぐる真正性の議論とは別の次元 で、モノに関連した人や場所 の聖性が生み出される点を論じた。
22『ランペドゥーサの 悲劇』後の苦難」	単著	平成 31 年 3 月	『トラウマを共有する』 田中雅一・松嶋健編、 京都大学学術出版会、 pp. 403-411.		

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	著書は総ページ数、学術論文等は巻、号、ページ	概要	共著の場合担当部分の章・節、題名、ページ
報告書 1 『ライフデザインと福祉 (well-being) の人類学: 多機能空間の持続的活用に関する研究』	共著	平成 21 年 3 月	国立民族学博物館、鈴木七美編	150 ページ	国際シンポジウムの成果をまとめた報告書であり、シンポジウムにおいて藤原は全体討論のコメントーターを担当した。本報告書では、障害者が直面する問題や高齢者の自画像に関して出された意見をまとめ、よりよい人生を送るために我々が協働のもと取り組める課題領域に関し、考察を行った。	pp. 104-105
2 「聖なるもののマッピング: 宗教からみた地域像の再構築に向けて」	共著	平成 24 年 3 月	京都大学地域研究統合情報センター、片岡樹編	88 ページ	共同研究の2年間の成果をまとめた報告書である。藤原は「マリア信仰をめぐる動態の時空間マッピング: 地中海マルタを事例として」と題し、マリア信仰の複数の系譜とその意味を読み解く方法としてのマッピングの有効性について論じた。	pp. 73-76
3 『文部科学省特別経費事業 広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 平成 25 年度報告書』	共著	平成 26 年 3 月	国立大学法人大阪大学広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター	79 ページ	広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業の1年間の活動をまとめた報告書である。藤原久仁子「5-4 アジア発グローバル・リーダー育成プログラムの構築に向けて: CIS の課題と展望」、pp. 51-55.	

4『文部科学省特別経費事業 広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 平成25年度報告書』	共著	平成 27 年 3 月	国立大学法人大阪大学広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター	97 ページ	広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業の1年間の活動をまとめた報告書である。藤原久仁子「5-3-2 カップリング・インターンシップ (マレーシア) 実施報告」、pp. 44-50、「5-4 産学連英によるアジア発グローバル・リーダー育成プログラムの構築に向けて」、pp. 75-90.
5『文部科学省特別経費事業 広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 平成27年度報告書』	共著	平成 28 年 3 月	国立大学法人大阪大学広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター		広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業の1年間の活動をまとめた報告書である。藤原久仁子「5-3-8 カップリング・インターンシップ (マレーシア) 実施報告」 pp. 79-85、「5-4 多様な知の“協奏”と“共創”によるアジア発グローバル・リーダー育成プログラムの構築に向けて」 pp. 85-106.
6『文部科学省特別経費事業 広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 平成28年度報告書』	共著	平成 29 年 3 月	国立大学法人大阪大学広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター		広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業の1年間の活動をまとめた報告書である。藤原久仁子「産学共創によるグローバル人材育成プログラムの構築」 pp. 78-87.
7『超高齢社会のエイジフレンドリー・コミュニティ』	共著	平成 30 年 3 月	国立民族学博物館、鈴木七美編		藤原久仁子「人形供養と『福』贈り：人とモノのエイジング・イン・プレイスをめぐって」

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	著書は総ページ数、学術論文等は巻、号、ページ	概要	共著の場合担当部分の章・節、題名、ページ
口頭発表						
1「マリア出現をめぐる『語り』とカルト集団の形成：マルタ島 Wiedtal-Girgenti の事例から」	単独発表	平成 10 年 5 月	日本民族学会第32回研究大会		マルタ島ギルゲンティの「マリア出現」に関する事例報告	
2「自伝的語りと Individuality」	単独発表	平成 11 年 5 月	日本民族学会第33回研究大会		指示代名詞の変化と認識・表象の関係について取り上げた研究報告	
3“From Private Experience to Public Environment: On the Development of the Guza Mifsud Movement”	単独発表	平成 11 年 6 月	CESNUR(Center for Studies on New Religions), Bryn Athyn, Pennsylvania, U.S.A.		カリスマの生成に関する研究報告	



4「巡礼地の誕生と奇跡物語の変容:マルタの聖地ギルゲンティを事例に」	単 独 発表	平成 14 年 6 月	「宗教と社会」 学会第10回学術 大会		巡礼地を訪れた人々の治癒の体 験談を分析した研究報告
5「巡礼の諸相:トレランティズムの概念規定に向けて」	単 独 発表	平成 14 年 9 月	日本宗教学会第 61回学術大会		1970年代以降の宗教活性化現象 を取り上げた研究報告
6「神津島における民俗とキリスト教」	単 独 発表	平成 15 年 5 月	日本民族学会第 37回研究大会		人類学における調査と記述の問題 について、神津島における調査 データをもとに論じた研究報告
7「カトリックの信仰世界とファンダメンタリズム」	単 独 発表	平成 16 年 6 月	日本文化人類学 会第38回研究大 会		「カトリック・ファンダメンタリ ズム」という用語について、分析 概念と現地概念との齟齬を論じ た研究報告
8“The Development of Groups within/out of Catholic Charismatic Renewal in Malta: On the Specialization and the Reorganization of a Group”	単 独 発表	平成 17 年 3 月	The 19th World Congress of (IAHR): the International Association for the History of Religions		マルタにおけるフィールドワー クをもとに、カリスマ刷新運動内 における新たな集団の形成とそ こからの分岐及び再編の契機に ついて論じた研究報告
9「聖なるモノのある『場所』:マルタにおける願掛け Nagħmel Wegħda と感謝巡礼 Pellegrinagg/ Żjara の調査より」	単 独 発表	平成 19 年 6 月	日本文化人類学 会第41回研究大 会		巡礼を非日常的な聖なる空間へ の身体移動として通過儀礼論的 立場から描いてきた人類学に対 し、客観的事実としてそのような 「場」が存在するのではなく、 日々主観的にそれぞれ構築され ることを論じた報告
10「災因論再考:主客反転の構図をめぐって」	単 独 発表	平成 19 年 9 月	日本宗教学会第 66回学術大会		カトリックにおいては邪視信仰 が悪魔祓いの教義に基づいて再 編されつつあり、そのなかには被 害者と加害者がこれまでと逆転 する例があること、及びその含意 について論じた研究報告
11「『忠実なカトリック教徒』の/という選択」	単 独 発表	平成 20 年 5 月	日本文化人類学 会第42回研究大 会		フーコーのいう従順な隷属主体 を生成する装置としての告解論 に対し、マルタにおける多様な告 解運営の事例を通じて、告解の多 様な機能・運用のされ方を提示し た報告
12 “Religious Commodities and Narrative Creation: The Consumption of Removable Deity Heads, Card Amulets and Blessed Underclothes”	単 独 発表	平成 23 年 8 月	Society for East Asian Anthropology, Held in Jinsudang, Chonbuk National University, South Korea		東京都品川にある願行寺の「縛り 地藏」の取り外し可能な首、岡山 県井原市「嫁いらず」観音院で販 売される祈祷済み下着、京都いち ひめ神社で販売されるカード型 お守りとその供養を巡る信仰を 取り上げ、信仰者とモノ及びモノ をめぐる信仰実践の関係について 論じた。
13 “Designing a Coupling Internship”	単 独 発表	平成 26 年 5 月	The International		NME/Commission on Aging and the Aged Panel の発表者の一人とし

Program for Age-Friendly Communities: In Search of New Standards for Global Leaders"			Union of Anthropological and Ethnological Science (IUAES)		て、グローバル化と少子高齢化が同時進行する日本に必要なリーダーの条件に関して発表した。
14 『『カップリング』手法による実践型グローバル人材育成プログラムの構築』	単 独 発表	平成 28 年 1 月	文部科学省特別経費プロジェクト広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業第 3 回シンポジウム		第 3 回シンポジウム「グローバル活動における多様な知の“協奏”と“共創”：人材の育成及び活用をめぐる各界の動き」において、異文化協働、文理協働、グローバル産学連携の3つの視点から海外インターンシップを整理し、発表を行った。
15「グローバル産学連携による人材育成プログラム (CIS)」	単 独 発表	平成 28 年 9 月	平成 28 年度大阪大学 F D フォーラム		研修テーマ「大阪大学における大学院教育の未来を考える」の国際教育部門の代表として、グローバル・リーダーシップ力の養成を担う教育に関し、海外の企業や大学と共に取り組むためのプログラム開発について発表した。
16「イタリア調査概説：カトリックにおける聖遺物・聖人崇敬・スーフィズム」	単 独 発表	平成 29 年 7 月	スーフィズム・聖者信仰研究会		ローマを中心に巡礼地とその崇敬対象について紹介した。また、祝福や聖別等のカトリックの用語を説明し、聖なるモノにしたり解除する方法と、その背後の信仰体系について考察を行った。
17 “Holy water for Subtle Flavor in Cooking and Relationships: Dimensions of the Daily Consumption of Religious Materials in Catholic Malta”	単独発表 ( パネル発表者の一人)	平成 30 年 7 月	World Congress for Middle Eastern Studies, Sevilla, Spain		カトリックにおける聖なるモノの、信仰に基づく扱い方と日常的な使用のあり方について、フィールドデータをもとに紹介し、「商業化」、「観光化」をキーワードに分析した。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	著書は総ページ数、学術論文等は巻、号、ページ	概 要	共著の場合担当部分の章・節、題名、ページ
その他 (短文・記事・翻訳等)						
1 「地中海・マルタ共和国の祝祭と音楽」 (短文)	単著	平成 8 年 11 月～平成 9 年 1 月まで連載	音楽雑誌『月刊ショパン』	pp. 46-47 (11月号), pp. 48-49 (12月号). pp. 48-49 (1月号)		
2 「信仰のかたち：マルタの祝祭文化」 (短文)	単著	平成 9 年 7 月	ガイドブック『サビッハ マルタ』	pp. 143-147		
3 「虚構の中の要請と	単著	平成 10 年 4	『地中海歴史風	第 7 号 :		

抵抗」(短文)		月	土研究誌』、地中海歴史風土研究所	37-41		
4 「社会的出来事の作成過程」(短文)	単著	平成 10 年 10 月	『地中海歴史風土研究誌』、地中海歴史風土研究所	第 8 号 : 48-50		
5 『『マリア出現』に見られる物語性』(短文)	単著	平成 12 年 10 月	『地中海歴史風土研究誌』、地中海歴史風土研究所	第 12 号 : 32-44		
6 「マリア信仰の史的展開と巡礼地の形成について」(短文)	単著	平成 13 年 4 月	『地中海歴史風土研究誌』、地中海歴史風土研究所	第 13 号 : 32-44		
7 「南ヨーロッパにおけるマリア崇敬運動」(短文)	単著	平成 15 年 1 月	「国際宗教学研究」ニューズレター」、国際宗教学研究	第 37 号 : 9-13		
8 「聖母マリア」(辞書項目)	単著	平成 16 年 10 月	『宗教のキーワード集』、学燈社	pp. 174-176		
9 「友達の友達」・「フアクション」(辞書項目)	単著	平成 16 年 12 月	『文化人類学文献辞典』、弘文堂	p. 211, p. 825		
10 「石原俊著『近代日本と小笠原諸島：移動民の島々と帝国』(書評)	単著	平成 20 年 12 月	『コンタクト・ゾーン』京都大学人文科学研究所人文学国際研究センター	pp. 171-177		
11 「デイヴィット・チデスター『コンタクト・ゾーン』における夢見：19 世紀南アフリカのズールーの夢・幻視・宗教』(翻訳)	単著	平成 20 年 12 月	『コンタクト・ゾーン』、京都大学人文科学研究所人文学国際研究センター	pp. 1-22		
12 「巡礼と場所」(辞書項目)	単著	平成 21 年 1 月	『文化人類学事典』、日本文化人類学会編、丸善	pp. 414-415		
13 「告解制度を再考する：マルタの週末の風景から」(短文)	単著	平成 21 年 12 月	『民博通信』、国立民族学博物館	pp. 8-9		
14 「フェティシズム」(辞書項目)	単著	平成 22 年 10 月	『宗教学事典』宗教学事典編纂委員会編、丸善	pp. 306-307		
15 『『ディアスポラから世界を読む』(書評)	単著	平成 23 年 3 月	『コンフリクトの人文学』	pp. 288-290		

16 「旅紀行 地中海マルタの“ひと”と猫」(短文)	单著	平成 24 年 9 月	大阪大学出版会 『京都大学地域研究統合情報センター・ニューズレター』11号	p. 12		
17 「南ヨーロッパの宗教」(辞書項目)	单著	平成 24 年 11 月	山折哲雄監修 『宗教の事典』、朝倉書店	pp. 229-231		
18 「南欧の宗教状況」(辞書項目)	单著	平成 24 年 12 月	井上順孝編『世界宗教百科事典』丸善	pp. 606-607		
19 「苦しみと幸せの奉納品 Ex-Voto: マルタの油絵を読む」(短文)	单著	平成 25 年 2 月	京都大学地域研究統合情報センター図書室ホームページ	<a href="http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/library/">http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/library/</a>		
20 「博物館におけるモノの展示と時空間マッピング」(短文)	单著	平成 25 年 4 月	小島敬裕・増原善之・小林知編 『宗教と地域の時空間マッピング・ニューズレター』6号	pp. 19-22		
21 「フェロメーナ・キート『ファッション、フェティッシュ、ファケール』」(翻訳)	单著	平成 29 年 6 月	田中雅一編『フェティシズム研究第3巻 侵犯する身体』京都大学学術出版会、pp. 249-274			

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	著書は総ページ数、学術論文等は巻、号、ページ	概要	共著の場合担当部分の章・節、題名、ページ
(社会的業績) 日本学術振興会科研費等審査委員候補者データベース登録者	個人	平成 27 年 4 月から現在				
(助成金等) 文部省国際交流制度派遣留学生奨学金	個人	平成 6 年 4 月	(金額) 往復旅費の実費 +110 万円		マルタ大学への留学費用	
公益信託澁澤民族学振興基金「研究活動助成」	個人	平成 15 年	50 万円		調査研究費用	
科学研究費補助金「研究成果公開促進費」	個人	平成 15 年	210 万円		博士論文の出版費用	
科学研究費補助金「特別研究員 (PD) 奨励費」	個人	平成 16 年 4 月から平成 19 年 3 月	340 万円		調査研究費用 「カトリック・ファンダメンタリズムとマリア崇敬運動に関する人類学的研究」	
科学研究費補助金「若手研究 (B)」	個人	平成 20 年 4 月から平成 23 年 3 月	403 万円		調査研究費用 「南ヨーロッパにおけるエヴァンジェリカルとカトリック・ファンダメンタリズムの展開」	
大阪大学 GCOE プロジェクト費 (学内競争的資金)	個人	平成 20 年 4 月から平成 24 年 3 月	240 万円		プロジェクトの運営・調査研究費用 「地中海地域におけるトランスナショナリティに関する人文学的研究」	
科学研究費補助金「基盤研究 (B)」 「少子高齢・多文化社会における福祉・教育空間の多機能化に関する歴史人類学的研究」	連携研究者	平成 21 年 4 月から平成 24 年 3 月	1,846 万円		連携研究者の一人として、南欧の福祉、及び、ぼっくり信仰に基づく巡礼に関するフィールドワークを行った。(研究代表者：鈴木七美教授、国立民族学博物館)	
京都大学共同研究 個別ユニット研究費	個人	平成 25 年 4 月から平成 27 年 3 月	70 万円		研究会、シンポジウム等開催費用 「南欧カトリシズムの変容と福祉ビジネスの展開に関する地域間比較」	
科学研究費補助金「基盤研究 (B)」 「多世代共生『エイジ・フレンドリー・コミュニティ』構想と実践の国際共同研究	連携研究者	平成 24 年 4 月から平成 27 年 3 月	1,001 万円		あらゆる人々が心地よく暮らしていけるためのコミュニティの構想をテーマに、人のウェルビーイングや他者との関係の紡ぎ方について議論した。	
科学研究費補助金「基盤研究 (C)」 「グローバル人材育成に向けた宗教人類学的知識の活用に関する研究」	個人	平成 27 年 4 月から平成 31 年 3 月	416 万円		経営学的なダイバーシティ・マネジメント論と人類学的な多文化理解のアプローチを接合するための研究を行う。	
科学研究費補助金「基盤研究 (B)」 「地中海周辺域における聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」	研究分担者	平成 28 年 4 月から平成 31 年 3 月	1,755 万円		研究分担者として、地中海マルタ及びイタリアの聖遺物崇敬の調査を担当する (研究代表者：赤堀雅幸教授、上智大学)	

科学研究費補助金「基盤研究 (A)」 「イスラームおよびキリスト教の聖者・聖遺物信仰の人類学的研究」	研究分担者	平成 31 年 4 月から令和 6 年 3 月	4,238 万円		研究分担者として、地中海マルタの聖者・聖遺物崇敬の調査研究を担当する。フィリピンにおける共同調査も予定している。
(共同研究) 「複数文化接触領域の人文学」	共同研究員	平成 18 年 4 月から平成 22 年 3 月			研究代表者」田中雅一教授、京都大学人文科学研究所
「キリスト教文明とナショナリズム：人類学的研究」	共同研究員	平成 19 年 10 月から平成 22 年 3 月			研究代表者：杉本良男教授、国立民族学博物館
「ライフデザインと福祉 (Well-being) の人類学：多機能空間の持続的活用に関する研究」	機関研究員	平成 20 年 4 月から平成 21 年 3 月			研究代表者：鈴木七美教授、国立民族学博物館
「ウェルビーイング (福祉) の思想とライフデザイン」	共同研究員	平成 20 年 10 月から平成 23 年 3 月			研究代表者：鈴木七美教授、国立民族学博物館
「トラウマ経験と記憶の組織化をめぐる領域横断的研究：物語からモニュメントまで」	共同研究員	平成 22 年から平成 27 年 3 月			研究代表者：田中雅一教授、京都大学人文科学研究所
「ケアと育みの人類学」	機関研究員	平成 23 年 4 月から平成 26 年 3 月			研究代表者：鈴木七美教授、国立民族学博物館